

(環境) 恵田小学校 4年

地域の自然を見つめ、考え、地域を愛する心を育む子の育成  
—「ふるさと恵田調査隊」の実践を通して—

5月～2月(75時間)

## 1 ねらい

本校は、自然に囲まれ、田畑も多く、近くには、キウイ畑やブドウ園がある。6年間を通して、米づくりをはじめとして、地域の方をゲストティーチャーに迎え、育て方を教えていただきながら各学年で栽培活動をしている。学区を流れる恵田川で一部の子は魚つりをしたり、メダカをとったりして遊んでいる。しかし、ほとんどの子は地域のことをよく知らない。そこで、恵田学区を探検し、そこから課題を見つけ、課題解決のために追究していく活動を通して、学区を知り、自分たちの住む学区を大切にしていこうとする子をめざした。

## 2 実践の概要

### (1) 恵田学区を探検しよう

恵田川・宮前川を中心とする恵田町と丹坂町、ブドウ園を中心とする駒立町を探検した。特にカメやメダカなど、生き物が住む恵田川に興味を持った。2回目の探検では、生き物だけでなく、空き缶やビニール袋など、ごみが落ちていることも発見し、ごみを拾いたいという声があがった。



【恵田川の探検】

### (2) ごみを拾って川をきれいにしよう

社会科の見学で学習したことを生かして、ごみを分別しながら拾う活動をした。通学時や探検時の目に見えるごみ以外に茶碗のかけらやバイクのライトのようなものまで落ちていることが分かった。ごみを拾って川はきれいになったという意見と、油のような物も浮いているところがあったからきれいになってないという意見に分かれた。そこで、川の水がきれいかどうか調べる方法を調べていたので、市役所の出前講座を紹介した。



【恵田川のごみ拾い】

### (3) 恵田川ってどんな川？市役所の人に聞こう

#### ① 指標生物調査

恵田川で、石の裏などにいる生物を専用のあみや筆などでとり、種類別に分け、その数を調べることによって川のきれいさを見分けた。結果は、きれいな水に住むウズムシもいたが、ザリガニなど汚い水に住む生物が多いので、汚い川であることが分かった。子供たちは、汚くしているのは、人がごみなどを捨てるためであると考え、自分たちは、川へ直接ごみを捨てなくても、道路などに捨てたごみが風で運ばれ、ゆくゆくは川へ落ちていくことも考えられるので、ごみは捨ててはいけないと子供たちは感じたことをまとめた。



【指標生物調査】

## ② CODパケットテスト（水質検査）

出前講座で家庭排水についてのお話を聞いた後、グループで自分たちの家庭排水のうち、調べたいものを持ち寄り、CODパケットテストを行った。ここでは、家庭排水は、下水処理をされて川へ流されるので、直接川に排水が流れるわけではないが、場所によっては、下水処理施設がないため直接流れるところもあることも学んだ。牛乳、味噌汁、洗濯水、米



【CODパケットテスト】

のとぎ汁のほかに恵田川の水も調べた。その結果、きれいな水にするためにたくさんの水が必要になることが分かり、家庭排水が川を汚す原因の一つであることが分かった。食事をする場合は残さないことや家庭排水に気をつけることの大切さが分かったようだった。また、「エコマンダラー」で川付近の環境について考え、学ぶことができた。これらの調査や学んだことをきっかけに、「川をきれいにしたい」という子供たちの思いが強くなった。

### （４）川をきれいにする方法、川を汚さない方法を考えよう

インターネットや家の人や本を使って川をきれいにする方法を調べた。社会科で学習した3R活動の中から、揚げ物をした後の油をリサイクルする廃油石鹸を作ってみることにした。実際に使ってみて、汚れが落ちることが分かった。

### （５）廃油石鹸を配って良さを知ってもらおう

全校の子や地域の方にも廃油石鹸のよさを知ってもらうために配ろうということになり、アロマオイルや果物の汁を入れて廃油石鹸を作り、作り方や使用法を書いた紙を入れて袋詰めをして、欲しいという子に配った。また、地域に広めようと地域の方が集まる収穫感謝祭を利用して、学んだことを発表し、欲しいといわれる人に配った。

### （６）恵田川クリーン活動大作戦

家庭排水に関しては、食べ物を残さないことや米のとぎ汁は、植物の水やりにリユースするなど、家庭排水をできるだけ少なくすることを実行した。ごみについては、再度、川の周りや川のごみ拾いをした。特にごみステーションに多く落ちているたばこの吸い殻も拾った。水をきれいにする方法のひとつである「EM菌」



【EM発酵液】

について調べた子が、自分の母親が働いているクリーニング屋さんで、EM菌を使ったクリーニングをしていることをみんなに伝えた。そこで、クリーニングの工場を経営している方をお迎えして、みんなでお願いし、EM菌についての話や実際に作る体験をさせてもらうことになった。実際にEM菌を作り、家へ持ち帰って家で使ったり、トイレにも流したりした。また、川へも流した。さらに、炭も有効であることを知って、駒立のぶどう園でうかがった話も合わせて、ぶどう園で作っている炭について、再度話を聞いた。炭をわけてもらったので、どのようにして炭を川へ入れるのか話し合った。ただ置くだけでは、流れてしまうので、炭を固定する方法を中心に話し合った。話し合いの結果、炭を川底に半分埋めて固定したほうが良いことになった。炭をそれぞれ川底に埋めた。

## 3 実践をふりかえって

子供たちは、探検をすることによって普段気がつかないことが多いことに気付いた。汚いところをきれいにしたいという思いが芽生え、行動することができた。また、地域の方が協力してくださり、子供たちは自分たちのために地域の方が協力をしてくださって大変喜んだ。地域を知って地域のためになろうとする気持ちが芽生えてきてうれしかった。